

令和5年12月30日

## 1 事業報告

<p>(1) 業務の効率化・介護職の働き方の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ケアサポーターが行った業務 (掃除、シーツ交換、傾聴、レクリエーション補助、食事の見守り)</li></ul> <p><input checked="" type="checkbox"/> 業務の効率化や介護職の働き方により効果があった (具体的な改善内容：業務の分業の実施により、効率的な介護サービスが提供できた。)</p> <p><input type="checkbox"/> 効果がなかった (課題点： )</p>
<p>(2) ケアサポーターとして求める人材の応募状況について</p> <p>募集方法 チラシ、ホームページ</p> <p>問合せ数 5人</p> <p>応募者数 4人 (応募者の属性：高齢者2人、障がい者2人)</p> <p>雇用者数 3人 (うち補助対象 2人、補助対象外 1人)</p>
<p>(3) 雇用したケアサポーターへの研修状況及び介護職員等との連携状況について</p> <p>研修の概要：フロア責任者が施設の概要や、介護助手業務の内容等を説明した。 また、掃除やシーツ交換など介護助手の業務に関する指導を行った。</p> <p>連携の概要：施設のことや利用者の状況など、介護助手が尋ねやすい環境を整備し、 介護助手業務を効率的にできるようにしたことで、介護職員も専門的業務に専念できた。</p>
<p>(4) 雇用したケアサポーターの事業完了後の状況について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 介護助手として継続雇用 ( 2人)</p> <p><input type="checkbox"/> 介護職員として雇用 ( 人)</p> <p><input type="checkbox"/> 雇用予定なし ( 人)</p>

## 2 ケアサポーター雇用による、ケアの質の変化について

質が向上した     雇用前と変化なし     質が低下した

※考えられる理由

(介護職員が身体介護に専念できたことで、これまで以上に利用者の心身の状況の変化に配慮することができたため)

## 3 補助対象者における今後のケアサポーターの活用の方向性について

今後も活用していく

→効果があると考えるケアサポーターが担う業務

(掃除、シーツ交換、日用品の買い出し、食事の配膳・片付けの補助)

業務改善に効果がないため、活用を見合わせる

#### 4 介護業務におけるケアサポーターの活用について（自由記述）

利用者との日常的な会話や食事の見守りなど、介護助手業務と介護職員による専門的業務には重なり合う部分もあり、双方の協力体制の構築が課題と考える。

また、個人の資質による業務の効率性に差がでないように、介護助手業務のマニュアル化なども必要と考える。